

六甲山魅力再発見市民セミナー

市民セミナーVol.112
里山和楽会の活動～地域
とともに／道満 俊徳
2012年10月発行

第112回テーマ 里山和楽会の活動 ～地域とともに

講演

- 里山和楽会の結成と運営
- 里山林の管理・環境整備
- 地域とのコミュニティづくり



講師：道満 俊徳さん プロフィール

1938(昭和13)年生まれ、73歳、神戸市北区在住。神戸市シルバーカレッジ13期卒業生。同カレッジで3年間学んだ仲間を中心に「再び学んで、他のために」をモットーに、知識や経験を生かし、広く社会に還元するボランティア団体である「NPO 社会還元センターグループ」のサークル、「里山和楽会」代表。



里山整備作業

実施日：平成24年10月20日(土)
時間：13時00分～15時45分
場所：六甲山自然保護センター

午前中は13名で自然体験・整備活動

午前10時から12時まで13名が参加して、まちっこの森で自然体験会&環境整備活動を行いました。伐採したアセビの整理に従事する一方で、講師の道満さんに観察コースをご案内しました。

神戸市シルバーカレッジ卒業生が活躍

講師の里山和楽会代表の道満さんは神戸市シルバーカレッジの卒業生です。今年の2月11日、ひとはく第7回共生のひろばで口頭発表し、館長表彰を獲得されました。

5年前に、県立人と自然の博物館の服部 保先生から里山和楽会が手作りされた里山管理のマニュアルを紹介されて、感心しました。このたび、やっと里山整備のお話を聞けることを喜んでいます。講演中、くり返し、シルバーカレッジの魅力や卒業生の活躍ぶりを強調されたのが印象的でした。

里山整備と管理を正攻法で実践

里山和楽会は神戸電鉄の谷上駅から、南へ約1キロのかがやきの森東地区約3haで里山整備をしています。障害者福祉施設のかがやき神戸が所有している放置林を、地域と一緒に自然を楽しめる場所にしていくのです。

シルバーカレッジ13期の卒業生15名で活動をスタートし、全員が里山のことを知らなかったのが、服部 保先生に指導を仰いだのです。そして、兵庫方式で「夏緑高林型」の景観を目指しました。



かがやきの森東地区

主催：六甲山を活用する会

協力：兵庫県立人と自然の博物館

後援：兵庫県神戸県民局、灘区役所、神戸市教育委員会

まず、ランドデザインを作って、かがやき神戸と合意し、活動のあり方を周知するために各種のマニュアルを作って活動を軌道に乗せていったのが特徴です。

地形図をもとに外観図を作って5つのゾーンに分けて植生調査を実施しています。活動計画を作って結果を記録に残すという着実さで、年間40日ほどの作業を続けて、11月には第1次整備再生を完了します。

地域とのふれあいにも力を注ぎ、林床整備して堆肥を製品化し販売し、しおりやカレンダーも販売し、売上は寄付しています。小学生の環境教育を支援し、地域の人たちに観察会を催すなど多彩な活動ぶりです。2、3年後には整備から保全の活動に転換したいと、意気軒昂です。

後継者づくりと拡がりが次の課題

70代の方が主導して見事な里山整備・管理を進めておられます。この活動を地域の内外に広めて、担い手となる後継者を見出すことが大きな課題になっています。団塊の世代を挟んで、その次の時代にどのように引き継いでいけるかは、市民活動に共通するテーマでしょう。

※詳しくは、1・2ページをお読みください。

参加の感想 伊谷 幸子 さん

私は二度目の参加でした。夫と一緒にバスに乗り、丁字が辻で下車、記念碑台まで歩きました。説明を受け、道具をお借りして山に入り、細かい枝をハサミで切ったり、炭用に1.1mに切つてあるアセビの生木を表通りまで運ぶ作業でした。初参加の若い人達に、先輩ぶって教えてあげたり、楽しい作業でした。セミナーは道満俊徳氏の里山のお話で、とても熱心でよい講演でした。機会があれば、又参加したいと思います。



【助成金をいただいている機関】

大阪コミュニティファンド(東洋ゴムグループ環境保護基金)、花王・みんなの森づくり助成、コープこうべ環境保護基金、兵庫県緑化推進協議会、自然保護ボランティアファンド

■フロー図を基に管理作業

植生調査枠とまったく一緒の管理作業枠を設けて、調査した後で管理作業に入る。活動計画に基づいて記録を作っている。管理作業枠の中で、伐る・伐らないの判断をして保全木を決め、それをマーキングする。

樹木の調査で全部マーキングして伐採し、ピオネスト（堆肥ピットを作ってそこで熟成して堆肥にする）に積んでいる。林床整備とこの一連の流れが活動の状況で、これを毎回繰り返している。

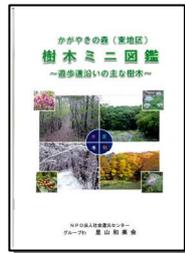
■今年度で第1次整備作業は完了

Gゾーンが2012年の1月に終わった。最初はホワイトゾーンで2008年に完了し、そしてイエローゾーン、その次にブルーゾーン。さらにグリーンゾーン、そして今年はレッドゾーン、これを済ませるとおおむね第1次の整備再生が終わる。

3. 地域とのコミュニティづくり

■林床整備と観察路づくり

林床整備をして堆肥を作り、堆肥は製品化して、ふれあい祭りで販売している。ぐるっと回っても30分位だが、道を作り、案内板を設置している。眺望が非常にいい所には景観図を設置している。春と夏と秋にはマップを作り、樹木のミニ図鑑ができた。



樹木ミニ図鑑

■ふれあい祭りに参画

毎年1回だけ、地域の方と自治会と一緒にふれあい祭りをしており、われわれもスタート当初から参画している。その内は4つで、1つは先ほどの堆肥、それと花や蝶のしおり・カレンダーなどを販売。そしてお子さん対象のキコリ大会、さらにドングリ工作やダーツ遊びを、毎年やっている。



子どものキコリ大会

■様々な自然体験を支援

2006年位から3年生に対する環境教育がスター

トした。われわれも2008年からずっと地元の小学校とやっている。体験学習という形で、音を聴いたり体感してもらっている。

「この木何の木」ということで、植物に関心を持ってもらおうと、木の高さ、木周り、葉っぱを測り、木肌を塗料で塗ったりしている。枯れ松を伐採して年輪を勘定してもらっている。ピットの中にはカブトムシが沢山発生するので観察してもらっている。小学生の低学年は昆虫が大好きだ。子供達がここに来るだけ入って行って、故郷の森にしてほしいと思っている。

■他の団体との交流

夏休みに入った直後に、夜の昆虫採集と天体観察の両方を、六甲の自然を守る会の清水さんの団体と一緒にやっていて、非常に人気だ。

まとめ(道満さん)

スタート時のメンバーから人が増えないのは大変だと思う。財原の方も確保することや、かがやき神戸にもっと還元すること、地域との一体感づくりを考えたい。生物多様性の保全には寄与しているが、ナラ枯れ防止も課題になっている。1月に第1次整備を完成するので、2、3年後は第2次の保全を行いたい。

質疑応答

■グループの人は地域に住んでいるの？

地元は私だけで、灘区、西区、須磨区、北区など、あちこちから来ています。会費は取るが、ボランティアでするので支払いはしません。

■地域の若い人は来ますか？

周りは30、40代のサラリーマンが増えて、子どもの声も賑やかで活気のある新興住宅地です。50歳近い方々を継承者にするのが望ましい。自治会に働きかけたが駄目でした。

事務局より

平成24年度の市民セミナーは4回開催という新たな試みであり、その最終回を意義深い講演で締めくくっていただいた。ビジネス界で活躍した方々が、新たな境地で地域貢献されているのは、熟年者の手本になると思う。しかも、原則を踏まえて、着実な展開をされていることは、賞賛に値する。われわれも学び取りたい。

◆参考・配布資料など

- ・パワーポイント：「里山和楽会の活動～地域とともに～」
- ・パンフ：「かがやきの森東地区里山散策マップ」、「かがやきの森と里山和楽会」
- ・資料：「里山林の管理マニュアル」、「樹木ミニ図鑑」
- ・参考VTR：「ハチ対策」

道満 俊徳：どうまん としのり
 里山和楽会 代表
 〒651-1212
 神戸市北区筑紫が丘 8-3-16
 電話：078-583-3228

◆参加者の声

- ・身近な地域社会で自然保存、環境整備、地域おこしにご活躍なさっている和楽会の皆様に敬意を表します。
- ・本日の講演はPDCAともに完璧な内容でした。
- ・実地にお伺いして勉強させて頂ければと思います。
- ・KSCの学校に来て頂いてご講演をお願いしたい。
- ・とてもお上手で、とても良いお話でした。

◆参加者：19名(50音順・敬称略)

泉 美代子 伊谷 幸子 伊谷 正弘 板野 武一
 岡本 正美 尾崎 尚子 岡崎 (里山和楽会)
 田邊 征三 渡海 宗一郎 堂馬 英二 道満 俊徳
 福岡 省悟 藤原 壮一 松井 光利 村上 定広
 山下 昌人 柳田 千恵子 脇田 博幸 (18名)
 ※午前の自然体験会：徳見 健一 (1名)